当科における最近の腎移植統計

下田直威、堀川洋平、飯沼昌宏、松浦　忍、光森健二、土谷順彦
大山　力、佐藤　滋、佐藤一成、加藤哲郎
大谷　浩、小松田　敦、今井裕一*
多田　均、鈴木敏夫**
秋田大学医学部 泌尿器科、同 第三内科*、同 附属病院薬剤部**

当科では1975年にはじめての腎移植を行ったが、以来1996年までに散発的に10例を経験したに過ぎなかった。体制を整えて1998年２月に腎移植を再開し、現在までに50例弱の経験を加えたので、ここでこれらのまとめを報告する。

１．わが国ならびに本県の透析患者数と移植件数の実態

わが国の透析患者数は年々増加傾向にあり、ほぼ20万人に達したが、献腎移植希望登録者数は約13000人と横ばい状態である。これは日本の透析環境が非常に発達しているために移植を希望する者が少ないこともあるが、登録しても腎移植の機会に恵まれないことから登録を抹消する患者がいるためともされ、憂うべき問題である。

秋田県についてみても同様の傾向があり、透析患者は1500人を超えているが、献腎移植希望登録者数は伸び悩み、120人弱となっている。

1997年から昨年2001年まで５年間の全国腎移植件数の推移についてみると、2000年の746件をピークとして昨年は702件とやや減少した。これは、前年に比べて移植施設が22施設減少したことが理由として挙げられている。内訳では生体腎が８割弱に対して、献腎と脳死体腎を合わせたものが２割強であった。

昨年2001年のブロック別腎移植件数についてみると、関東甲信越ブロックが269件で全体の40%弱を占めていた。また、東海・北陸ブロックでは献腎と脳死体腎移植が腎移植全体の40%弱をしめており、この地域でのドナーアクションの成果を反映するものと思われる。いっぽう、東北ブロックでは献腎２件脳死体腎１件を含む32件の腎移植が行われたにすぎなかった。

２．当科における腎移植

以上のような背景下、当科では本県腎移植希望者の要請にこたえるべく準備を整え、1998年に生体腎移植から腎移植治療を再開した。以降、昨年まで1999年の献腎移植１件を含め、年間７件から10件の腎移植を施行した。昨年2001年、当科は８件の腎移植を施行し、東北ブロックの施設では仙台社会保険病院外科とならび最多となった。今年に入ってからは、すでに15件の生体腎移植を施行し、年内さらに６件が予定されている（図）。

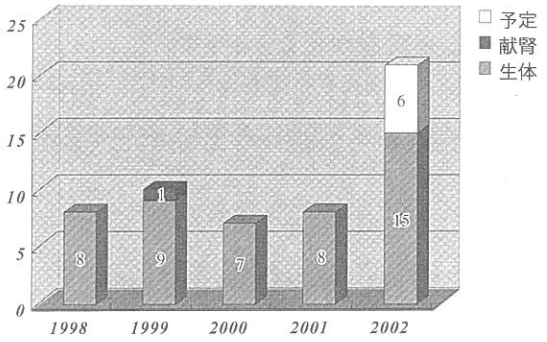

図　当科腎移植患者数の推移

以下、当科腎移植患者48例の背景を示す。

レシピエントの年齢範囲は８歳から71歳であった。65歳以上の高齢者でも３人を対象とした。平均年齢は37歳であり、2001年の全国の平均とほぼ同じであった。性別では男26人、女22人であった。

腎移植患者の原疾患については34人（71%）が慢性糸球体腎炎であり、そのうちIgA腎症と診断がついているものが13例（全体の27%）で最多であった。そのほかは表に示す（表１）。

表１　原疾患

慢性糸球体腎炎(34)	IgA腎症	13
	巣状糸球体硬化症	3
	膜性増殖性糸球体腎炎	1
	その他	17
膠原病(4)	ループス腎炎	3
	Wegener肉芽腫	1
遺伝性腎炎	Alport症候群	2
腎硬化症		2
逆流性腎症		2
妊娠中毒症		2
ショック		1
不明		1

術前透析方法については、血液透析患者が30人で、そのうち当初からの血液透析患者が25人、CAPDから腹膜のトラブルのため血液透析に移行した患者が5人であった。いっぽうCAPD患者が18人（38%）で、そのうち１人はブラッドアクセスが困難のため血液透析からCAPDに移行した患者であった。

ドナーについては親が33件（69%）と一番多く、次いで兄弟が10件（21%）、配偶者が４件（８%）であった。内訳は母親18件、父親15件、姉３件、妹３件、兄２件、弟３件、妻３件、夫１件であった。

血液型では一致例が34件（71%）、不一致例が10件（21%）であった。さらに血液型不適合間移植を４件（８%）行った。

成績を評価するには、平均観察期間25ヵ月の現在早計ではあるが、生存率96%、生着率94%であった。死亡した２例の内訳は、術後に誤嚥性肺炎を併発して回復できなかった１例と移植手術

中に肺水腫を起こして集中治療の甲斐なく多臓器不全に至った１例であった。１例が移植腎機能の低下から、透析生活に戻らざるを得なかった。

患者の紹介元については、当院第３内科をはじめとして、広く県内の透析施設から紹介をいただいた。また少数ではあるが、県外からの紹介も出てきた（表２）。この場をかりて御協力に深謝いたします。

表２　腎移植患者の紹介元施設

秋田組合総合病院	4	平鹿総合病院	4
秋田赤十字病院	5	本荘第一病院	4
秋田大学（小児科）	1	本間病院	1
秋田大学（第3内科）	10	松田記念泌尿器科ｸﾘﾆｯｸ	3
秋田南ｸﾘﾆｯｸ	1	ミナトクリニック	3
公立横手病院	3	盛岡友愛病院	1
市立秋田総合病院	3	由利組合総合病院	2
仙北組合病院	4		

＜総　括＞

滞っていた腎移植治療を1998年に再開し、着実に件数を重ねて平成14年11月現在48件を経験した。スタッフの熟練したところで、65歳以上の高齢レシピエントや、ドナー不足に対処するために血液型不適合移植あるいは夫婦間移植へ対象範囲を拡大してきた。いっぽう献腎移植は１件のみで、未だ献腎移植希望者の期待には答えていない。献腎移植を推進するためにはドナー候補者の臓器提供意思を生かすシステムの構築が急務であり、現在そのための活動を行っている。